

地 理 B

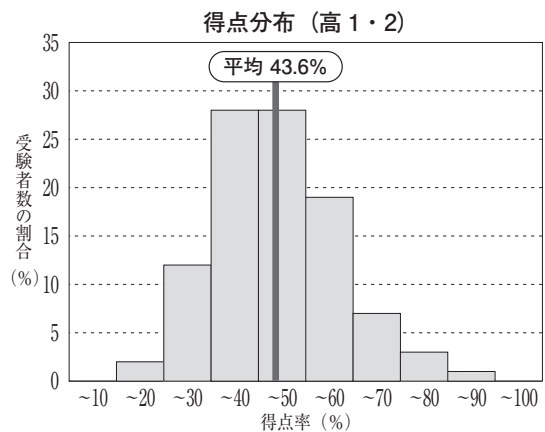
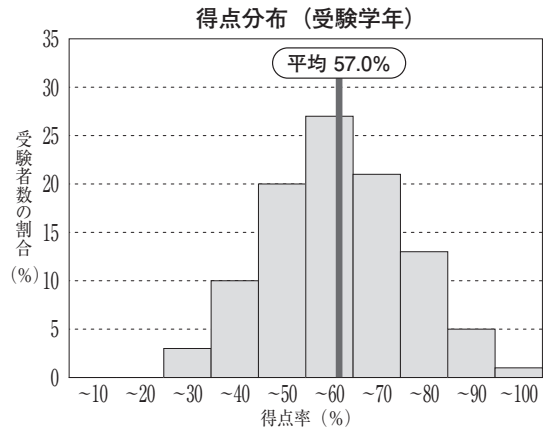
基礎知識の習得後は、図表問題を解く力も高め、得点力アップを！

I. 全体講評

受験学年の平均点は 57.0 点であり、今年のセンター試験本試験の平均点 60.1 点まであと 3.1 点に迫った。センター本番まで約 2 か月半を残す現時点としてはまずまずの結果が出た。教科書・図説資料集レベルの基礎知識が身につけてきた受験生が多く、夏休み以降の学習の成果が現れ始めたと言えよう。しかしながら、正答率の低かった問題を分析すると、統計図表や地図の問題を読み解く力が未熟な受験生がまだまだ多いとわかる。正解に直結する選択肢のみを探し出そうとし、全ての選択肢について該当する項目（国・産品等）を特定することをしないために間違ってしまうケースや、自分の習得している知識と統計データを上手く結びつけて考えることができずに、誤った判断をしてしまうケースが多々見られる。

Ⅲ. 学習アドバイスを参考にし、早めにこうした弱点を克服したい。一方、高1の平均点は 43.3 点、高2の平均点は 43.8 点であり、センター試験レベルの問題に対応するだけの基礎知識が備わっていないことが明らかになった。地理は暗記科目ではないが、教科書・図説資料集レベルの最低限の知識は身につけておかないと歯が立たない。

Ⅲ. 学習アドバイスなども参考にし、そろそろ本格的な地理の学習に着手しよう。



II. 大問別分析

■ 各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問
高1	43.3 点	34.9%	49.2%	60.3%	40.3%	42.0%	33.3%
高2	43.8 点	38.4%	48.2%	59.9%	39.4%	41.4%	35.5%
受験学年	57.0 点	53.9%	64.2%	73.2%	53.4%	54.7%	43.0%
全員	53.5 点	49.7%	59.9%	69.7%	49.7%	51.2%	40.9%

受験学年の結果データをもとに分析を行う。

第1問 世界の自然環境と自然災害
 雨温図等の気候グラフの問題は、全てのグラフと観測地点を一致させて解くこと！

大問全体の平均得点率は 53.9% であった。自然

地理はセンター試験に毎年出題され、かつ、産業や集落など他の分野を理解するための基礎にもなる最重要分野であるが、やや物足りない結果となった。問4は頻出の雨温図の判定問題であったが、誤答④の選択率 41.0% が正答率 29.9% を大きく上回った。多くの受験生が、サハラ砂漠に近いアディスア

ベバのグラフを、年間通して降水量の少ない④と考慮してしまっただけで、全てのグラフと観測地点(都市)を一致させようとすれば、乾燥しているパキスタンのカラチのグラフを④ではないかと考え、標高の高いエチオピア高原上のアディスアベバのグラフを、気温の低い③と判断するところまで考えが及んだかもしれない。気候グラフの問題を解く時は、全ての観測地点、グラフについて丁寧に考えること。問5も、誤答③の選択率59.6%が正答率27.2%を大きく上回ったが、これには、北アナトリア断層に関する知識の不足が大きく影響した。問5はやや難しい問題であった。

第2問 エネルギーと鉱工業

世界の国々の発電構成は、各国の自然環境や天然資源と関連づけて考えよう！

大問全体の平均得点率は64.2%であり、6つの大問中で2番目に高かった。センター試験頻出のエネルギー・鉱工業の分野でこのような好結果が出たことは喜ばしい。このまま得意分野にしたい。よく出来ていた中で、問1における誤答①の選択率の高さが気になった(25.8%)。4分の1を超える受験生が、新期造山帯に属し、水力発電に適した高低差のある地形と、地熱発電に適した火山活動に恵まれるニュージーランドのグラフを、地形が平坦で火山活動もない安定陸塊に属するデンマークのグラフと判断してしまっただけで、世界の国々の発電構成は、各国の自然環境や天然資源を強く反映している。自然、資源等の背景と統計データと関連づけて考えるこの種の図表問題を、きちんと正解できるようになろう。

第3問 貿易とグローバル化

現代世界の経済的な結びつきについてよく理解できている。自信を持とう！

大問全体の平均得点率は73.2%と6つの大問中で最も高く、とても良い出来であった。特に、統計データ等を用いずに、文章で直接的にグローバル化に関して理解しているか確かめた問3・問6の正文・誤文判定問題、問5の穴埋め問題は出来がよかった。貿易や国際交流など世界経済のグローバル化に関する内容は近年極めて重視されているので、このまましっかり知識を深めていきたい。問1・問2・問4のような統計図表問題を読み解く力も向上してくれば、さらなる得意分野となるであろう。

第4問 ラテンアメリカ地誌

図表問題を解く際は、全ての選択肢を特定しようとする正解を得やすくなる。

大問全体の平均得点率は53.4%であり、6つの大問中で2番目に低かったが、正答率の極端に低い問題はなく、標準的な出来であったと言えよう。問1については、誤答①の選択率が29.4%と高かったが、多くの受験生がcの分布だけに注目し、それがブラジルに多かったため、cをコーヒー豆と判断してしまっただけで、a~dの全てについて該当する農産物を特定しようとしていたら、cよりも低緯度に分布し、かつ海岸付近に多く見られるaを、熱帯の作物であり、かつ輸出に便利な港湾付近に農園を立地させると有利なプランテーション作物であるコーヒー豆のものと判断できたはずである。その上で、畜産業の盛んなパンパに分布するcについては、家畜飼料となる大豆であると気づいたはずである。図表問題を解く際は、正解に直結する選択肢だけではなく、全ての選択肢を特定しようとする正解を得やすくなる。心に留めておくこと。

第5問 西アジアと中央アジア

高地と低地の分布は極めて重要なので、地図帳などでもう一度確認しておくこと。

大問全体の平均得点率は54.7%であった。極端に正答率の高い問題もなければ、低い問題もなく、標準的な出来であった。問2はセンター試験頻出の地形断面図の問題であったが、出題者の予想よりはよく出来ていた(正答率54.8%)。多くの受験生が急峻なイラン高原の存在に気づけずに誤答①を選択するのではないかと予想していたが、実際に①を選択した受験生は24.9%にとどまった。高地(山脈・高原等)と低地(侵食平野・堆積平野等)の分布は極めて重要なので、地図帳などでもう一度確認しておこう。

第6問 地域調査(兵庫県)

重要な地域調査の大問で振るわない結果に。演習をくりかえし実力を高めること

大問全体の平均得点率は43.0%であり、6つの大問中で最も低かった。毎年センター試験に出題される地域調査の大問が振るわない結果となり、残念である。過去問やセンター型問題集で演習をくりかえし、実力を高めてもらいたい。地域調査の大問では

地形図の読図問題が必ず出題されるが、今回は地形図を読み解く問2と問3の出来がともに悪く、前者の正答率が27.3%、後者は42.4%であった。問2は、多くの受験生が旧地形図の水田の地図記号を知らなかったために、③を誤文と判断することが出来なかった。過去のセンター試験でも、旧地形図の水田の地図記号を判読させる問題が出題されているので、間違えた受験生はここでしっかり覚えておくこと。問3は、河川と鉄道の上下関係から、住吉川を天井川と判断できた受験生が少なかった。

ことの方が重要である。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

センター試験まで約2か月半となった。これからはセンター試験本番形式の問題集に一冊でも多く取り組みたい。しばらくは60分の試験時間にこだわらず、教科書、図説資料集、用語集等を読んで重要事項を理解しなおし、地図帳を開いて地理的事象の分布を再確認することと並行しながら、100点をとるつもりでじっくり問題に向き合うとよい。特に今回多くの受験生が苦戦した統計図表の問題については、正解に直結しない選択肢についても、理由をはっきりさせた上で該当する国、都市、産品等を特定すること。また、やや難しめの問題についても、統計データの背景にある地域の自然・産業・社会・文化・世界情勢等について調べたり考えたりしながら、確実に正解を絞り込むこと。このような演習を繰り返せば、図表問題を読み解く力が着実に身につき、得点力がアップするはずだ。

◆これから本格的に受験勉強に取り組む人へ

まずは、基礎知識を身につけることに専念するとよい。ただし、地理は暗記科目ではないから、用語集に載っている語句や、難しい参考書の文章を丸暗記したりする必要はない。教科書を精読し、図説資料集に載っている地図、グラフ、写真を頭にやきつけ、それらの解説に書かれた内容を理解すればよい。地理はたくさん暗記することよりも、重要事項について正確に理解することの方が重要な科目である。例えば、世界の海溝や海嶺の名前を全て覚えようとするよりも、海溝がプレートの狭まる境界、海嶺（中央海嶺）がプレートの広がる境界に発達し、前者は津波地震の震源域になることを理解しておく